

西ウクライナ避難所

西ウクライナ避難所作りのための寄付のお願い

ロシアによるウクライナ侵攻で多くのウクライナ人が国内外で避難を余儀なくされています。しかしながら、戦争が長引き、さまざまな理由により国外で避難したウクライナ人が次々と母国へ帰っています。

そこで、当協会では、現地のNGOと協力し、比較的安全な西ウクライナに避難所を作り運営のことにしました。つきましては、寄付を募っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本ウクライナ文化交流協会
 TEL 072-1926-5134
 銀行口座 三井住友銀行・八尾支店
 普通 2017246 名義、日本ウクライナ文化交流協会

連載小説 其ノ拾壹

北条得宗家被官・楠木多聞兵衛正成、右者鎌倉参勤ノ上將軍御所警護ヲ命ス

との合状が河内赤阪に届いたのは正和四年（三二五年）の暮れのことであつた。楠の当主・正成はたゞに巨魁を以て河内・和泉の一族の豪族に参集を命じた。

鎌倉は、正安三年（三二〇一年）の退任後も北条家の嫡流たる「得宗」として十数年の間の権勢を振るひ、ついに第九代執権・北条貞時が死に、その嫡男・高時が成人するまでの間、中絶すること執権を務めた。高時が死に、その嫡男・高時が成人するまでの間、中絶すること執権を務めた。高時が死に、その嫡男・高時が成人するまでの間、中絶すること執権を務めた。



2031 楠木正成 拳兵700年 作 池内文蔵

正成の泳ぐ視線の隅で久子は「はい」と応え、その小さな口唇を綻ばせた。

翌早暁、赤坂城を脱した正成一行は騎馬で石川流域を下り、柏原の湊で舟に乗り換えた。生まれ育った奥河内が遠ざかってくる。玉手川を下る。現在の柏原から八尾・東大阪を経て淀川に注ぐこの流域は、高低差が殆どないことから度々氾濫した。かれが八歳の頃、母親を同じくする三歳下の妹が奔流にのまれて行方知れずとなった。一緒にいた恩恵の雉丸は間一髪で正成に救助されたが、心に負った深手から声を失った。この流域から氾濫が治まるのは、はるか後の世のことである。



夢野悠人

西郷は混沌のような男

社内教育では「準備の」と自信満々。その8割、実行2割」だとして「あらかじめ見込みを立てておののが世手のプロフィールや思問のふただけども、想行動に関する情報取これが一番わるい」とハッキリ。つまり「おれなどは、何にも考え

郷に会って「海舟が神戸海軍操練所で行っていることを吹き込んで、少しくたげれば少し来てくれと頼みます。響き。」といったが、辻原登の「陥罪」陸奥宗光の青春（日経新聞連載中）によると、海舟と小三郎は、今川通の相国寺近くの薩摩藩邸に着いた。直ちに西郷との面会が叶った。貧相な書院で、巨漢の西郷一人が部屋が墓がっしりまわんばかりの狭さだった。

山岡淳一郎著「勝海舟 歴史を動かす交渉力」の表紙

勝海舟 歴史を動かす交渉力 山岡淳一郎

徳川の政治から思ふところ。天下の政治でござる。はるばるの海舟は徳川と徳川の歴史を動かす男の物語。

「勝海舟 歴史を動かす交渉力」の表紙

勝海舟 歴史を動かす交渉力 山岡淳一郎

徳川の政治から思ふところ。天下の政治でござる。はるばるの海舟は徳川と徳川の歴史を動かす男の物語。

「勝海舟 歴史を動かす交渉力」の表紙

勝海舟 歴史を動かす交渉力 山岡淳一郎

徳川の政治から思ふところ。天下の政治でござる。はるばるの海舟は徳川と徳川の歴史を動かす男の物語。

「勝海舟 歴史を動かす交渉力」の表紙

勝海舟 歴史を動かす交渉力 山岡淳一郎

徳川の政治から思ふところ。天下の政治でござる。はるばるの海舟は徳川と徳川の歴史を動かす男の物語。

「勝海舟 歴史を動かす交渉力」の表紙

勝海舟 歴史を動かす交渉力 山岡淳一郎

新刊案内

命の営み エピソード写真集 身近な小さい生き物たち 2

ドニエプル出版 定価3,300円(税込)

武田憲幸・久美子 著

武田憲幸・久美子 著

武田憲幸・久美子 著

武田憲幸・久美子 著

武田憲幸・久美子 著

武田憲幸・久美子 著

武田憲幸・久美子 著

武田憲幸・久美子 著

武田憲幸・久美子 著

武田憲幸・久美子 著

武田憲幸・久美子 著

武田憲幸・久美子 著

武田憲幸・久美子 著

悪党の風貌

次々号(12月15日付)につづく

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

悪党の風貌

